

令和4年 中学部(国語)年間指導計画

教科・領域名		国語	学年	1年	
作成責任者			教育課程・類型	II 課程A類型-aグループ	
教科観の 点別標	知識及び技能	・日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。			
	思考力 判断力 表現力等	・順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。			
	学びに向かう力 人間性等	・言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。			
学期	月	時数	単元名	単元の目標	学習内容
一 学 期	4 月 ～ 7 月	44	・自分のことを知ってもらおう 「かんげいかい」	(知及技)発声や声の大きさに気を付けて話すことができる。(中1段階ア(イ))	・氏名や好きなことなど、聞き手を意識して簡単な自己紹介を行う。
			・楽しかったことを伝えよう 「たのしかったえん足」	(思判表)話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めることができる。(中1段階A聞くこと・話すことイ)	・経験したことを思い浮かべ、あらましや感じた気持ちを発表する。
			・ひつような物を考えてみよう 「かいもの」	(思判表)日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動することができる。(中1段階C読むことウ)	・買い物の場面を取り上げ、簡単な受け答えを練習したり、チラシや看板の文字を読む。
			・工夫して読んでみよう 「三びきの 子ぶた」	(思判表)簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。(中1段階C読むことア)	・役割を決め、登場人物になったつもりで音読したり、声の出し方を工夫したりする。
二 学 期	9 月 ～ 12 月	56	・どんなものか考えよう 「のりもの」「花」	(思判表)文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすることができる。(中1段階C読むことエ)	・乗り物や花の簡単な説明文を読み、特徴を捉えさせる。
			・言葉であそぼう 「わらべうた」	(知及技)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(中1段階ウ(ア))	・わらべうたを通して、簡単な歌と手遊びをして友達と楽しむ。
			・とよしつへ行こう 「本をさがそう」	(知及技)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知る。(中1段階ウ(エ))	・本の中から見たかった箇所を見つけたり、図書を用いた調べ方を学ぶ。
			・冬にふれよう 詩「雪やこんこ」「たき火」	自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(中1段階ウ(ア))	・身近な童謡の歌詞を取り上げ、冬の世界観をイメージさせる。自身の経験から冬を感じる景色や物を題材に作詩する。
三 学 期	1 月 ～ 3 月	40	・ペーパーサートでお話しよう 「パーティーをしよう」	(思判表)自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すこと。(中1段階A聞くこと・話すことエ)	・動物が出てくる短いお話をペーパーサートを作成し、役割ごとに演じる。
			・出来事を書こう 「文をかこう」	(思判表)見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめることができる。(中1段階B書くことア)	・出来事や経験を5W1Hを意識して短い文で書く。
			・ローマ字を知ろう	(知及技)姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くことができる。(中1段階ウ(ウ)ア)	・アルファベットを学び、名前や地名を読む。
			・一年間を振り返ろう	・学習した事や、思い出を書いて一年間を振り返り目標の達成感を味わう。	・既習内容を振り返ったり、4月に立てた目標を振り返ったりする。
年間を通して			・学習した漢字や言葉を使ってみよう	(知及技)点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くことができる。(中1段階ウ(ウ)イ)	・ひらがな～日常的に使用する漢字(小学校4年程度まで)の読み書きを生徒一人一人の習熟度に合わせた学習を繰り返す。 ・自分の名前や家族の名前、住所などを書く。 ・暑中見舞いや年賀状を書く。
			・カタカナに親しもう 「かたかなをよもう」 「かたかなをさがそう」	(知及技)長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知る。(中1段階ア(ウ))	・日常生活で目にする語句や文、看板などに書かれている片仮名を読む。
			・音読を工夫しよう	(知及技)語のまとまりに気を付けて音読することができる。(中1段階ア(キ))	・文字を読むだけでなく、リズムや調子を考えた り、暗記するなど工夫して音読することができる。
			・文章を読んで理解しよう	(思判表)語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序などの内容の大体を捉えることができる。(中1段階C読むことウ)	・文章問題を解いたり、聞き取りに答える。
年間授業時数		(140)時間			

令和4年 中学部(国語)年間指導計画

教科・領域名		国語	学年	1年	
作成責任者			教育課程・類型	Ⅱ 課程A類型ーbグループ	
教科観の 点別標	知識及び技能	・日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。(中学部1段階)			
	思考力 判断力 表現力等	・順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。(中学部1段階)			
	学びに向かう力 人間性等	・言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。(中学部1段階)			
学期	月	時数	単元名	単元の目標	学習内容
一学期	4月 5月 7月	44	・よく聞いて伝わるように話そう 「かんげいかい」	(知及技)発音や声の大きさに気を付けて話すことができる。(中1段階ア(イ)) (思判表力)相手や目的に応じた話し方で話すことができる。(中1段階A聞くこと・話すことエ)	・こくご☆☆☆p9「じこしょうかい」の挿絵を参考にしながら、簡単な自己紹介の内容や慣用的に用いられている言い方を理解し、自信を持って話す。 ・こくご☆☆☆p10「こえを出そう」、p11「こえの大きさ」を基に、相手に伝わったかどうかを振り返り、生徒同士で確認し合う。
			・ことばと出会う 「いろはを しろう」	(知及技)姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くことができる。(中1段階ウ(ウ)) (思判表力)自分が書いたものを読み返し、間違いを正すことができる。(中1段階B書くことエ)	・似ている文字の形に注意して、平仮名を丁寧に書く。 ・五十音表を基に、「いろは歌」が四十七文字を一回ずつ使って作られていることを確かめる。また、「いろは歌」に込められた意味に触れ、声に出しながら、一字ずつ正しく書いているか見直す。
			・説明する文章を読もう 「のりもの」	(知及技)長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ることができる。(中1段階ア(ウ)) (思判表力)語や語句の意味を基に内容の大体を捉えることができる。(中1段階C読むことイ)	・こくご☆☆☆p36「しんかんせん」、p37「ひこうき」の写真や絵を示し興味関心を高めた後、本文の文字を追って読む。長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方を確認する。 ・語や語句の意味、特に副詞や形容詞に着目し、それぞれの乗り物の特徴を捉える。
二学期	9月 12月	56	・ことばで遊ぼう 「これは なんでしょう」	(知及技)事柄の順序など、情報と情報との関係について理解することができる。(中1段階イ(ア)) (思判表力)聞きたいことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えることができる。(中1段階A聞くこと・話すことア)	・暮らしに残る昔からの言葉やその由来について、どのような場面で使われているか探す。 ・身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。事物を説明するための問題を出しあって、尋ねたり応答したりする。
			・むかしばなしを楽しもう 「おじいさんと ねずみの おはなし」	(知及技)語のまとまりに気を付けて音読することができる。(中1段階ア(キ)) (思判表力)簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像することができる。(中1段階C読むことア)	・範読を聞いて繰り返しや言葉のリズムに気付いたり、役割を決めて音読したりする。 ・こくご☆☆☆p46～53の場面ごとに変わる挿絵も参考にして、場面の様子や登場人物の行動を追い、時間の経過や場面の展開を捉える。
			・詩の楽しみ方を見つけよう 「詩のくふうを 楽しもう」	(知及技)言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。(中1段階ア(ア)) (思判表力)見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめることができる(中1段階B書くことア)	・比喻や繰り返しの表現に注意する。それぞれの詩の特徴をつかみ、言葉の使い方や書き表し方でおもしろいと感じたことを発表する。 ・おもしろい工夫だと思う詩を紹介した文章を書く。あるいは、見つけた工夫を使って詩を創作する。書いた文章や作った詩を友達と読み合い、交流する。
三学期	1月 3月	40	・身のまわりの表記を読んでみよう 「かんばんを よもう」 「ローマ字」	(知及技)言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解することができる。(中1段階ア(エ)) (思判表力)日常生活に必要な語句や文章を読み、行動することができる。(中1段階C読むことウ)	・こくご☆☆☆p44,45の挿絵に示されている文字を読んだ後、文字が書き表している内容を理解し、どのような行動が求められているかを考えたり、実際に行動したりする。 ・こくご☆☆☆p108,109「ローマ字」では、日本語の母音を確認し、五十音表で基本的な構成を把握させる。身のまわりにある案内板やパンフレットなどにあるローマ字表記を読む。
			・一年間の学習を振り返ろう 「文を かこう」	(知及技)主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解することができる。(中1段階ア(オ)) (思判表力)相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(中1段階B書くことイ)	・一年間の出来事を振り返り、書きたい内容を集める。こくご☆☆☆p94～97の例文を読み、書き方を考え、メモを作る。 ・自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って、簡単な構成を考える。順番を考えながらメモを並べ替え、文章にする。
年間を通して			・日本語のひびきにふれよう 「きせつのことば」	(知及技)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(中1段階ウ(ア))	・代表的な俳人の中から選んだ季節に合わせた句を、情景や心情などを想像しながら、繰り返し音読する。
			・正しく読み書きしよう 「ひらがなを よもう」 「かたかなを よもう」 「かたかなを さがそう」 「ひらがなを かこう」 「かたかなを かこう」 「かん字を よもう・かこう」	(知及技)長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ることができる。(中1段階ア(ウ)) (知及技)点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くことができる。(中1段階ウ(ウ))	・こくご☆☆☆p20,21,54～56,82～91の挿絵を手掛かりに、表記している文字の正しい読み方や書き方を確認する。 ・必要に応じて、掲載された語句以外にも日常生活や社会生活の中で使われる言葉に幅広く触れる。
年間授業時数	(140)時間				

令和4年 中学部(国語)年間指導計画

教科・領域名		国語	学年	1年	
作成責任者			教育課程・類型	Ⅱ 課程A類型-cグループ	
教科 観 点 目 別 標	知識及び技能	・日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。(中学部1段階)			
	思考力 判断力 表現力等	・順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。(中学部1段階)			
	学びに向かう力 人間性等	・言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。(中学部1段階)			
学期	月	時数	単元名	単元の目標	学習内容
通 年	4 月 ～ 3 月	70	よく聞いて、伝えよう 「自己紹介をしよう」 「挨拶や返事をしよう」	(知及技)発音や声の大きさに気を付けて話することができる。(中1段階ア(イ)) (思判表力)相手や目的に応じた話し方で話することができる。(中1段階A聞くこと・話すことオ) (学・人)教師や友だちの話に興味を持ち、知らせたいことを話したり応答したりしようとするができる。	・教師の手本に倣って、発音や声の大きさに気を付けながら、自分の名前を言ったり、好きなものや得意なことなどを挙げたりして、自己紹介をする。友だちの発表を静かに聞く。 ・相手に伝わるように挨拶や返事をする。必要に応じて、視覚的に表示した「声のものさし」などで確認する。
			本に親しもう 「本をさがそう」 「本の読み聞かせ」	(知及技)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ることができる。(中1段階ウ(エ)) (思判表力)簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像することができる。(中1段階C読むことア) (学・人)いろいろな本を手に取り、読み聞かせを楽しもうとすることができる。	・学校図書館を利用する。図書館では配架の説明を聞いて、種類により図書が分類されていることに気付く。目的の本を探したり、本の中から見たかった箇所を見つけたりして、図書を用いた調べ方を知る。 ・物語や詩、紀行文など、様々な種類の本の読み聞かせをしてもらい、読書に親しむ。 ・文章の内容と自分の経験とを結びつけて、感想をもつ。
			声に出して読もう 「日付と曜日」 「具体物・絵と言葉」 「音節と文字」 「語のまとまり」	(知及技)言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くことができる。(中1段階ア(エ)) (学・人)語句の音節と文字の関係に関心を持ち、言葉を集めようとして読もうとすることができる。	・リズムよく日付や曜日の読み方を唱える。 ・「かきとかぎ(濁音)」、「ねことねっこ(促音)」、「おばさんとおばあさん(長音)」、「おもちやおもちや(拗音)」など、語句相互の意味関係を理解する。 ・語句には同義語や対義語、上位語・下位語、同音異義語、多義的な意味を表す語句などがあつたり、「橋」と「箸」、「雨」と「飴」など、同音でもアクセントによって意味が異なる場合があつたりすることに気付く。
			丁寧に書いてみよう 「いろいろな筆記具」 「なぞり・運筆」 「自分の名前」 「身近な人の名前」 「物の名前」	(知及技)姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くことができる。(中1段階ウ(ウ)⑦) (学・人)正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに取り組み、自分なりに、字を書く際に気を付けたいことを見つけようとするができる。	・硬筆(鉛筆、ペン)や毛筆など、いろいろな筆記具で書くことを楽しむ。 ・文字に興味を持ち、ひらがなやカタカナ、日常生活でよく使う漢字から、書きたい文字を選ぶ。 ・筆記練習や空書き、手添え支援などで、点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などの書き方を覚える。
			ことばを楽しもう 「しりとり」 「仲間分け」 「かるた取り」	(知及技)身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。(中1段階ア(ア)) (学・人)言葉の働きに気付き、言葉遊びを楽しもうとすることができる。	・いろいろな言葉遊びを通して、身近なことを表す語句を中心に、語彙を増やす。 ・言葉が表す事物の内容を確認しながら、言葉の響きやリズムを楽しむ。
年間授業時数			(70)時間		